

吉井公民館だより

No.70 夏号

2026年(令和8年)6月19日発行



<発行元>

赤磐市立吉井公民館事務局

〒701-2503 赤磐市周匝142

ライフプラザ吉井内

TEL/086-954-1379

FAX/086-954-9201

Mail/yoshii-komin@city.akaiwa.lg.jp

田植えを終えたばかりの田んぼがキラキラと輝く中、犬の散歩をしていると、穏やかな気持ちになりますが、ニュースでは嫌な事件や、無謀な交通事故が度々報道されていて、自分が加害者にも被害者にもならないように気をつけなければと日々思います。

さて、今年度も、各種公民館講座、公民館まつり、吉井つちのこ駅伝大会、そして、中高生の地域活性化事業「赤磐市を若者の力で元気にしよう！」を実施します。公民館活動にご理解、ご協力いただきますよう、地域の皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

また、公民館活動に興味がある、グループに参加したい、新たにグループ登録したいという方！ぜひ一度、吉井公民館にお越しください。お待ちしております。

講座案内



～参加者募集～

スマホ講座

～スマホで健康管理～

6/24(水) ◆アプリを使った健康管理
◆アプリを楽しもう

10:30～12:00

【場 所】ライフプラザ吉井 2階 視聴覚研修室

【講 師】携帯電話会社社員

【対 象】一般

【定 員】20人

【持ち物】スマートフォン
(※貸出あり)

【申込み】受付中



スマホ講座

～スマホで防災～

7/22(水) ◆防災アプリを使ってみよう
◆LINEで防災

14:00～15:30

【場 所】ライフプラザ吉井
2階 視聴覚研修室

【講 師】スマホアドバイザー

【対 象】一般

【定 員】20人

【持ち物】スマートフォン
(※貸出あり)

【申込期限】7月15日(水)

源氏物語講座

(全2回)

7/28(火) 29(水)
◆「紫の上」 ◆「女三の宮」

各回14:00～16:00

【場 所】ライフプラザ吉井 2階 視聴覚研修室

【講 師】北川 久美子さん

(県立高校非常勤講師)

【対 象】中学生以上

【定 員】20人

【持ち物】筆記用具

以前参加したことがある人はその時の資料

【申込期限】7月21日(火)



シーガルズと一緒に ペタンク体験教室

7/30(木)
9:00～10:30

(雨天中止)

【場 所】吉井B&G海洋センター

【講 師】井上 隆治さん

(赤磐市ペタンク協会会長)

【対 象】小学4年生以上

【定 員】20人程度

【持ち物】飲み物、タオル、帽子など

【申込期限】7月23日(木)

【講座実施報告】

◆ 百人一首講座 4/18 (土)

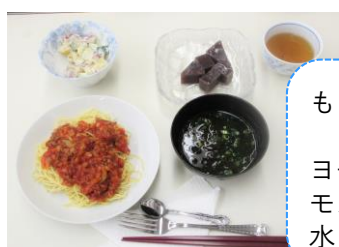
小学生から大人まで8人が参加してくれました。最初に和歌に込められた美しい風景や思いを学んで感じ、そのあとみんなで一緒にかるた取りをして、穏やかな春のひとつきを過ごしました。

百人一首って難しそう、覚えるのが大変そうと思うかもしれませんが、初めての人でも楽しく体験することができました。



◆ 健康料理教室 ① 「体の中から美しく～腸活めし～」

5/20(水)



もち麦入りミート
ソーススパゲティ
ヨーグルトサラダ
モズクスープ
水ようかん

6人が参加して腸活の食事のコツを学びました。

もち麦やモズク、ヨーグルトなど、一緒に摂ると効果的なおすすめ食材を使って4品を楽しく調理しました。どれも簡単でおいしく作れました。

第3回は11月頃開催予定です。

◆ スマホ講座 スマホ体験 (STEP①、②)

4/22(水)、5/27(水)

2日間で延べ20人が参加して、「アプリとは何か？」などスマホの基本を学びました。知らなかった使い方を学んで、スマホを使う楽しさを実感していただいています。

スマホを便利に使うため、リピートして学ぶ人が増えています。少人数での学びなので、質問も気軽にできます。8月以降も開催予定です。お気軽にご参加ください。



ふるさと探訪～稲蒔地区の伝説～ 「高田におちた雷さま」

空が暗くなり、遠くで雷が鳴り始めると思わず身構えてしまうものです。雷にまつわる伝説は全国各地にあります。稲蒔地区にも「高田におちた雷さま」の伝説が残されています。



「昔むかし、大昔、真夏のある日、むしむしとなんだか一雨ありそうな夕立もよう。「ゴロゴロ、ゴロゴロ」と遠くで雷さまが鳴りだした。急に真っ黒い雲がひろがり、サーと風とともに大夕立になった。「ピカッ、ゴロ、ピカッ、ゴロ。」それはそれは激しい夕立で、お年寄りや子供たちは怖くなって「くわばら、くわばら」と神様や仏様を祈っていた。「ピカッ！ピシャッ！」光と音がいつぺんにした。「ヒャッ」みんな頭をかかえて屈みこんだ。雷さまはあまりに暴れすぎて、雲の割れ目から足を踏み外し、田んぼの中に落っこちた。村人たちは「それ」と雷さまの太鼓を奪い取った。さあ大変、雷さまは太鼓がなくては雲の上に帰れない。「どうか、その太鼓を返してください。」といくら頼んでも、村人たちは太鼓を返さない。とうとう雷さまは泣き顔になって「これからは、高田にはぜったい落ちませんから、どうか太鼓を返してください」と泣きながら頼んだ。村人たちはかわいそうになり、太鼓を返しやることにした。雷さまは大変喜んで、太鼓を叩きながら、またもとの雲の上に帰ったとさ。」(吉井町教育委員会『ふるさとの語り草』1983、P5～6)

この伝説から「高田の地に雷が落ちない」と信じられており、実際に落雷の話を書かないのは雷さまが村人との約束をいまでも守り続けているからかもしれません。

文 山陽郷土資料館学芸員